



● 青森県議会議員 ● 所属会派：青和会

関良議会だより



▶ 発行：関 良(せきりょう) ▶ 事務所：〒038-0042 青森県青森市新城字平岡109-11
▶ 電話番号：017-787-3306 ▶ 公式サイト：<http://sekiryō.jp/>

● 人口減少時代に対応したまちづくりについて
● 青和会 関良議員 一般質問・答弁要旨

私は常に「弱者の立場に立つて、弱者の方が安心して人生を送れるように支援をしていくべき事」が福祉の基本であると考えています。この基本理念のもと質問します。

● 人口減少時代に対応したまちづくりについて

本県の人口ピークは1983年の1,529千人でしたが、直近の2017年7月のデータでは1,28万人となり、この34年間で八戸市の人口に匹敵する24万人の減少となりました。さらに県の資料によると、23年後の2040年には1,00万人の大台を割り込むと推計されています。

社会減と自然減を合わせると年間で約1万4千人のペースで人口減少が進み、年齢別では15歳から64歳までの生産年齢人口の割合が低くなる方で、65歳以上の老人人口の割合が増加傾向にあります。

人口100万人割れが目の前に突き付けられている現状で県は新たな都市づくりをどのように考えているのか、そこで3点質問します。

質問一

人口減少が進む中で、集落の維持・活性化に向けて県はどのように取り組んでいます。

答弁・企画政策部長

集落の維持・活性化に向けては、地域の住民自らが自分たちの住む地域を維持していく為の未来像を描き、その実現に向けて主体的に取り組んでいく事が重要です。県では具体的にモデル地域を選定し、それぞの住民と行政が協力して地域の維持・活性化方策を取りまとめた活動を支援している他、県的に更なる機運醸成等を図ることにしています。

● 市町村間の広域連携の現状について伺います。

答弁・総務部長

本県市町村は人口減少社会においても、県内の暮らしや人口定住に必要な機能を確保し、県域全体の活性化を図るために広域連携の仕組みである定住自立圏や連携中核都市圏を形成してきました。

質問二

市町村間の広域連携の現状について伺います。

答弁・総務部長

市町村が相互に連携・協力しながら県域全体の暮らしや人口定住に必要な機能を確保し、県域全体の活性化を図るために広域連携の仕組みである定住自立圏や連携中核都市圏を形成してきました。

質問三

市町村間の広域連携の現状について伺います。

答弁・総務部長

市町村間の広域連携の取組を推進するため、各圏域において課題の共にや解決方策の協議などを実施してきました。この意見交換会での検討が一つの契機となり具体的な事例として、五所川原圏域での広域空き家バンクの設置や、弘前圏域での婚活支援事業の広域化といった取り組みが行われています。

第291回定例会

平成二十九年九月二十八日

質問三

市町村間の広域連携の取組について伺います。

答弁・総務部長

市町村間の広域連携の取組を推進するため、各圏域において課題の共にや解決方策の協議などを実施してきました。この意見交換会での検討が一つの契機となり具体的な事例として、五所川原圏域での広域空き家バンクの設置や、弘前圏域での婚活支援事業の広域化といった取り組みが行われています。

● 青森港へのクルーズ船の誘致について

青森港新中央埠頭は県都青森市の中心市街地に隣接し、他港に比べても観光地へのアクセスに恵まれており、クルーズ船入港実績は2015年で全国13位、東北で1位でした。

今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問一

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問二

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問三

市町村間の広域連携の取組について伺います。

答弁・総務部長

市町村間の広域連携の取組を推進するため、各圏域において課題の共にや解決方策の協議などを実施してきました。この意見交換会での検討が一つの契機となり具体的な事例として、五所川原圏域での広域空き家バンクの設置や、弘前圏域での婚活支援事業の広域化といった取り組みが行われています。

● 青森港へのクルーズ船の誘致について

青森港新中央埠頭は県都青森市の中心市街地に隣接し、他港に比べても観光地へのアクセスに恵まれており、クルーズ船入港実績は2015年で全国13位、東北で1位でした。

今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問一

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問二

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問三

市町村間の広域連携の取組について伺います。

答弁・総務部長

市町村間の広域連携の取組を推進するため、各圏域において課題の共にや解決方策の協議などを実施してきました。この意見交換会での検討が一つの契機となり具体的な事例として、五所川原圏域での広域空き家バンクの設置や、弘前圏域での婚活支援事業の広域化といった取り組みが行われています。

● 青森港へのクルーズ船の誘致について

青森港新中央埠頭は県都青森市の中心市街地に隣接し、他港に比べても観光地へのアクセスに恵まれており、クルーズ船入港実績は2015年で全国13位、東北で1位でした。

今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問一

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問二

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問三

市町村間の広域連携の取組について伺います。

答弁・総務部長

市町村間の広域連携の取組を推進するため、各圏域において課題の共にや解決方策の協議などを実施してきました。この意見交換会での検討が一つの契機となり具体的な事例として、五所川原圏域での広域空き家バンクの設置や、弘前圏域での婚活支援事業の広域化といった取り組みが行われています。

● 青森港へのクルーズ船の誘致について

青森港新中央埠頭は県都青森市の中心市街地に隣接し、他港に比べても観光地へのアクセスに恵まれており、クルーズ船入港実績は2015年で全国13位、東北で1位でした。

今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問一

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問二

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問三

市町村間の広域連携の取組について伺います。

答弁・総務部長

市町村間の広域連携の取組を推進するため、各圏域において課題の共にや解決方策の協議などを実施してきました。この意見交換会での検討が一つの契機となり具体的な事例として、五所川原圏域での広域空き家バンクの設置や、弘前圏域での婚活支援事業の広域化といった取り組みが行われています。

● 青森港へのクルーズ船の誘致について

青森港新中央埠頭は県都青森市の中心市街地に隣接し、他港に比べても観光地へのアクセスに恵まれており、クルーズ船入港実績は2015年で全国13位、東北で1位でした。

今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問一

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問二

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問三

市町村間の広域連携の取組について伺います。

答弁・総務部長

市町村間の広域連携の取組を推進するため、各圏域において課題の共にや解決方策の協議などを実施してきました。この意見交換会での検討が一つの契機となり具体的な事例として、五所川原圏域での広域空き家バンクの設置や、弘前圏域での婚活支援事業の広域化といった取り組みが行われています。

● 青森港へのクルーズ船の誘致について

青森港新中央埠頭は県都青森市の中心市街地に隣接し、他港に比べても観光地へのアクセスに恵まれており、クルーズ船入港実績は2015年で全国13位、東北で1位でした。

今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問一

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問二

大型客船の寄港が大きな話題になっています。今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。

そこで2点質問します。

質問三

市町村間の広域連携の取組について伺います。

答弁・総務部長

市町村間の広域連携の取組を推進するため、各圏域において課題の共にや解決方策の協議などを実施してきました。この意見交換会での検討が一つの契機となり具体的な事例として、五所川原圏域での広域空き家バンクの設置や、弘前圏域での婚活支援事業の広域化といった取り組みが行われています。

● 青森港へのクルーズ船の誘致について

青森港新中央埠頭は県都青森市の中心市街地に隣接し、他港に比べても観光地へのアクセスに恵まれており、クルーズ船入港実績は2015年で全国13位、東北で1位でした。

今後も、誘致を強化し地域の経済活性化に取り組むことが必要です。国においても、明日の日本を支える観光ビジョンで訪日クルーズ旅客を2020年に500万人との目標を掲げている中、全国でもクルーズ船誘致の動きは活発になっており寄港競争に勝ついかなければならぬと思います。